

**「患者目線で革新的医療政策実現を
目指すパートナーシップ（PPCIP）」
プロジェクト本格始動 記者会見**
～患者の声を革新的な医療政策に反映させるために～

2021年10月5日(火)10:30-11:50

PPCIPプロジェクト：本格始動にあたって

日本では、国民皆保険制度の下、誰もが安心して医療を受けられる医療制度を実現してきました。一方で、世界にも例を見ない急速な高齢化の進展や、それに伴う生活習慣病（慢性疾患）患者の増大などにより、医療費の増加による財源の圧迫をはじめとして、持続的な社会保障制度を維持するために解決しなくてはならない様々な課題・改善点が浮き彫りになってきています。

私たちは、革新的な医療政策の実現および最適な制度運用のためには、政府や医療従事者だけでなく、患者や支援者、その他社会保障に関わるステークホルダーの各視点から、多角的に議論することが必要不可欠であると考えます。

そしてなによりも、慢性疾患だけでなく、がんや希少疾病も含めた様々な疾患を持つ患者が、画期的な治療薬をはじめとする医療イノベーションに持続的にアクセスできるようにするために、薬価制度や社会保障制度全般に関わる現在の医療政策に対して、患者視点の評価・意見を政策決定の場に反映させる仕組みづくりが必須であると考えています。

本プロジェクトは、より多くの患者の声を届け、患者目線でのイノベーションを医療政策に反映させることを目標としています。そのために、社会保障に関わる様々なステークホルダーとパートナーシップを組みつつ、患者自身の様々な意見や提案を集め、最適な医療制度を構築を目指した提言活動を実施してまいります。

(PPCIP 設立趣意書より一部抜粋)

PPCIPプロジェクト：今後の主な活動

- ◆ 様々な疾患を持つ患者の医療イノベーションへの持続的なアクセス維持を確保するために、患者目線の評価・意見を医療政策決定に反映させる仕組みづくりについて提言を行う
- ◆ 画期的な医薬品の迅速な開発や、アクセスの確保において、これを阻害する要因となりかねない医療制度、薬価制度上の課題を検証し、それらに対して患者目線に基づく改善策を提案する
- ◆ 様々な疾患を持つ患者が、革新的な新薬をはじめとする医療イノベーションにスムーズにアクセスでき、適切な治療を受けられることを目的として、国民や患者の医療リテラシーの向上に貢献しうる教育機会を提供する

PPCIPプロジェクト：参画メンバー

参画メンバー

一般社団法人日本難病・疾病団体協議会 常務理事	辻 邦夫
NPO法人パンキャンジャパン 理事長	眞島 喜幸
キャンサー・ソリューションズ株式会社 代表取締役社長	桜井 なおみ
早稲田大学理工学術院 教授 医療法人社団DEN 理事長	宮田 俊男
公益社団法人認知症の人と家族の会 代表理事	鈴木 森夫
中央大学大学院戦略経営研究科 教授 多摩大学院 特任教授	真野 俊樹
法政大学経済学部 教授	小黒 一正
一般社団法人サードパス 代表理事	大屋 亜希子
一般社団法人新時代戦略研究所 代表	朝井 淳太
一般社団法人新時代戦略研究所 理事長	梅田 一郎

(順不同)

PPCIPプロジェクト：組織のユニークさ

- 1. 構成メンバーの多様性：**
多種多様な専門家が集うことにより、俯瞰的かつ専門的な議論に基づく提言が可能
- 2. 保有機能の多様性：**
課題発見⇒検証・エビデンス構築⇒政策提言のとりまとめ⇒情報発信 といった
一気通貫型のアドボカシー活動が実現可能
- 3. 組織の柔軟性：**
検討課題や活動に応じたワーキンググループの形成や外部ステークホルダーとの連携など、
柔軟な体制構築が可能
- 4. 豊富なネットワーク：**
患者団体・患者支援団体を始め、政治家、官僚、アカデミア、製薬・医療機器業界関係者など
幅広いステークホルダーと強固なネットワークを構築

PPCIPプロジェクト：医療政策に関する課題意識



- ◆ **国が目指す方向性が見えない：**
 - ✓ 社会保障全体（予防・介護も含め）のビジョンや医療政策のグランドデザインが明確に示されていない
 - ✓ 症状固定・部位欠損を前提としており、“戦後の社会保障制度”に止まっている
- ◆ **患者視点が欠如している：**
 - ✓ 社会保障関連の審議会メンバーに患者代表が含まれているケースはあるが、選考基準や患者の声をどのように集約し、代弁しているかなどが不明瞭
 - ✓ 医療技術の優先順位付けやインセンティブ付けの際の評価が患者視点と乖離
- ◆ **患者・市民の医療リテラシーが向上していない：**
 - ✓ 自身が罹患した疾病については情報収集や学習はするが、それ以外の疾病や医療制度そのものに対する理解は不十分
 - ✓ 特定の疾患ごとに組織化された患者団体・患者支援団体による個別の活動が中心であり、疾患を超えた協働・連携は限定的

これらの課題により、患者誰もが画期的な治療薬をはじめとする医療イノベーションにスムーズにアクセスでき、適切な治療を受けられる「革新的な医療政策」の実現には至っていない

PPCIPプロジェクト：政策提言（案）

1. 医療政策の検討・決定段階に関する提言

- ✓ 患者・生活者の声が十分に反映される医療政策決定プロセスの構築
- ✓ 省庁、部署などの壁を排除した、全体最適に基づく横串の医療政策議論の実践

2. 医療サービスの利用段階に関する提言

- ✓ 患者・生活者が医療イノベーションに公平にアクセスできる基盤整備の構築
- ✓ 患者・生活者視点に基づく「ワンストップサービス型」社会保障制度の構築

3. 医療サービスの評価段階に関する提言

- ✓ 監督官庁が保有する医療関連情報に関する公開（透明性担保）制度の構築
- ✓ 患者・生活者視点に基づく医療評価制度（治療効果、QOL、治療満足度）の構築

PPCIPプロジェクト：今後の活動計画（案）

～2021年10月

- ・患者目線での医療政策に関する課題抽出
- ・PPCIPプロジェクトの組織体制構築
- ・本格始動記者会見開催（本日）

～2022年

- ・課題解決に向けた提言検討・策定
- ・ポリシーメーカー・メディアへのPPCIPプロジェクト周知
- ・他組織との連携

～2024年

- ・医療政策プロセスへの患者参画機会の創出
- ・患者の声が盛り込まれた革新的医療政策の実現
- ・患者目線での医療サービスの充実

【その他、計画中の活動】

- ・PPCIP活動の認知拡大と、賛同者・参画者募集
- ・患者向け医療政策に関する勉強会の実施